

シナイ山にて神のもとで力を取り戻したエリヤと共に源泉に戻る

ジャン・ペンケレシ神父

人は一生の間に、いろいろのことが起こります。喜ばしいこともあります、喜ばしくないこともあります。その一つの例は旧約時代のエリヤ預言者です。彼のことで最近ずっと心にあることをお話し致します。たぶん聖霊が私たち皆に語りたメッセージでしょう。

BC 860年の頃、イスラエルの王アハブは創造主の神「主」（意味は[私はある]）を捨てて、神ではない、偶像の礼拝を強要して多くの反対者を殺しました。エリヤ預言者は、主が告げた3年間の干ばつの後、カルメル山で「主」と偶像に捧げ物をするを王に要求し、天から降った火はエリヤの捧げ物を焼き尽くしました。「主」は自然界を支配する本当の神であることが明らかにされ、民は本当の神に立ちかえりました。（列王記上18章）

それなのに、女王はエリヤの命を狙ったので、彼は失望し死にたいほどでした。しかし失望のどん底から神を求めて、シナイ山に向かいました。そこはイスラエルが初めて神の言葉を聞かされ、神と契約を結んで神の民とされた所です。つまり、シナイ山の契約は選ばれた民のルーツです。（列王記上19章1～8）

シナイ山で、主はエリヤの前を通り過ぎて行かれました。主に先立って岩が裂けるほど激しい風が吹きました。その後、大地震。次に燃え尽くす火。これらのものによって主は、誰も抵抗できない力のある方であり、すべての状況を支配しておられることをエリヤに新たに示されました。イスラエルの運命はその手中にあります。

火の後、静かにささやく声が聞こえました。「主」はエリヤに、「あなたを愛しています、共にいます、守っています」と言っているようなささやきです。

その愛は力ある愛です。主は、偶像を強要する王朝を滅ぼすために、アラム（シリア）とイスラエルで新しく王となる人に油を注ぐように命じられました。

エリヤが経験した成功と試練を、私たちも人生の間に経験するものです。というのは、私たちは神の新しい民です。神と、愛と忠実の契約を結びました。洗礼はその契約です。苦しい時、失敗、病気、精神的な苦痛、行き詰まり、神を遠くに感じる時などがあります。その時、それだけを見つめず、エリヤのように、それを乗り越えさせる「力ある主」に目を向けるのは大切です。“シナイ山”すなわち神の御言葉（聖書）に戻り、御言葉と祈りの中に、静かに、神の声に耳を傾けましょう。その中に神は次のように語っておられます。

「わたしの目にあなたは価高く、貴く、わたしはあなたを愛している。」（イザヤ43章4）

「わたしはあなたと共にいる。あなたを見放すことも、見捨てることもない。」（ヨシュア1:5）

そうすれば、エリヤのように主の力の働きを体験します。御言葉は、心に隠されている偶像、敵である悪を光の中で明るみにします。毎日の生活の中で、神・御言葉は優先でしょうか。それとも自分の望み・欲望・感情は優先させているでしょうか。人を裁き、拒否し、憎み、他人のように扱い、自分のように愛していないのではないのでしょうか。神は、イスラエルの偶像を取り除かれたように、私たちの心からそれらの偶像を取り除く力があります。

聖霊はそれを行われます。そのために“シナイ山”、源泉に戻り、毎日、神の御言葉を読む必要があります。聖霊はその御言葉を読む人を照らし、心にある偶像を示します。そして神を第一にする愛と、人々を暖かく迎える愛を心に注がれます。

大事なのは、問題・苦しみを見つめ続けず、そこから救い出せる神に目を向けることです。